宣教の声
The Voice of Mission
海外邦人、欧州諸国、
および迫害下にある聖徒への宣教
2022年 11月号
No. 482

イエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。」マタイ9:37

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

みことばが導くとおりに

“御国が来ますように。
みこころが天で行われるように、地でも行われますように。”
マタイ6:10

「うっかりミス」という言葉があります。山登りで「この道はよく知っているから」と思い注意事項を怠れば（自分では大丈夫と思っているが）、結果的に不慮の事故に巻き込まれることがあります。自動車の運転でも、そうですね。自分はよく知っているからと思い、「うっかりミス」をすることがあります。

私たちの人生でも同じことが言えましょう。多くの人が自分勝手に行動し、神のことばに従わず、自分の道を探します。「もっと早く幸せになる道はないか」、「一度ぐらいは守らなくても、気分転換してもいいだろう」などと思い、みことば以外の道に進んでしまうのです。人間というものは、危機が訪れると、さまざまな手段を考え、どれが最善であるか秤にかけるものです。しかし神が願っておられるのは、何が最善の選択であるかを計算するのではなく、シンプルな従順です。神のみことばの前で、みことばを信じて従うとき、神は祝福を与えてくださいます。

私たちの選択肢は2つに一つです。

①この道、あの道とさまよい、悩みながら生きるか
②単純にみことばの導くままに進んでいくか

選択の岐路に立つことがあれば、ためらうことなく、みことばに従いましょう。神は私たちのたましいに対し、最後まで責任をとってくださいます。

いかがでしょうか。神のみこころを悟りたいと願っているでしょうか。あるいは神のみこころを知りつつも、うやむやにして従わないでしょうか。大切なことは神のみこころの道を選ぶことです。しかし神に教えて欲しいと願う前に、みこころに従う決意が必要です。英語で“Are you ready?”（備えはありますか。準備はいいですかの意味）というフレーズがありますね。私たちはどんな心の備えをしているでしょうか。今日、私たちは「うっかりミス」を犯さないために、心引き締めて歩みましょう。そして“御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも（私にも）行われますように。”とお祈りしましょう。神はグッドでもベターでもなく、ベストの道を備えてくださっています。

コロナ禍の海外邦人宣教 23
米国邦人宣教

ニューヨークめぐみ教会
牧師　笹川雅弘

以前の投稿（「コロナ禍の海外邦人宣教14」）では、①住みづらさが増す分断社会で求められている創造的な宣教活動　②コロナ禍がもたらした光と影、そして　③ニューヨークを起点としたグローバルな日本人宣教の意義、などについて述べさせていただきました。今回は、実際にこれまで取り組んできた活動とその結果についてより具体的に報告させていただきます。

オンラインでの働きの開始

2021年1月より、オンライン牧会という形で私の宣教活動は開始されました。その後渡米が実現するまでの期間、毎主日の礼拝説教だけでなく、信徒相談会という形での教会形成活動と、英語バイブルクラス（英語で聖書を勉強するという形での伝道集会）、通常の日本語バイブルクラスをオンラインで実施しました。1月早々にバイブルクラスを始めた求道者はしばらくすると決心者となり、それは受洗準備クラスへと変わっていきました。礼拝でも、クラスという形でも、一対一でも、双方向のコミュニケーションが可能なZoomという手段には大いに手ごたえを感じました。

渡米後早速のバプテスマと信徒の入れ替わり

その後4月12日にようやく渡米が実現し、生活立ち上げの苦労の中、アメリカと日本の物価レベルの違いをあらためて実感することになりました。古くて比較的安い1ベッドルームのアパートに何とか入居し、狭さや騒音などに苦労しつつも、5月のペンテコステ礼拝では、1月からオンラインで学びと受洗準備を続けて来られた方にバプテスマを授けることができました。その後数か月の間に、今まで教会の中心的存在として奉仕を担ってこられた二家族を日本とアメリカ他州へ送り出し（子どもを含めると計8名）、ほぼ同じタイミングで、日本の教会籍を持つ方が4名、教会に加わってくださいました。赴任早々、人の動きが激しい国外の日本人教会の実情を痛感しました。

家庭集会は試行錯誤（オンライン併用）

渡米後もしばらくは顔を合わせての集会は難しく、英語バイブルクラス、受洗後の学び、信徒の学びの集会などはもっぱらオンラインで行いました。その後アメリカでは6月頃から感染者数が大きく減少したため、月に一度のハートフォード集会（伝道集会）と、女性の教会員による「女性の学び」は、オンラインと併用という形で、家庭や教会に集まる形を再開。実際に集まることで初めて味わえる交わりの恵みの有難さを一同あらためて実感しました。

子ども集会（一日デイキャンプ、クリスマス会）

コロナ禍以前は三日間連続で行われていた夏の子どもバイブルキャンプは、感染者数が減少しつつあった7月に、一日デイキャンプという形で再開。恐る恐るという感じでしたが、計17名の子どもたちが集まり、み言葉の種がまかれました。その年の子どもクリスマス会の時期には再び感染者数が急増したこともあり、直前に6名のキャンセルがありましたが、計２２名の子どもたちが参加しました。このクリスマス会に参加された一家族はその後、教会の礼拝へとつながりました。

コンサートの様子

ゴスペルワークショップとコンサート

感染者数が落ち着いてきたのを見計らい、まずは一日だけのワークショップを二回ほど8月と9月に行い（それぞれ十数名の求道者が参加）、10月からいよいよ週に一度のワークショップを再開し、12月にコンサートを開催しました。ワークショップに参加した大人22名、子ども20名全員が感染から守られて無事出演。オミクロン株の流行に伴いコンサート会場は入場制限をかけましたが、上限の150名の入場者とZoomで観覧した約90名が感動を分かち合いました。住みづらさが増す分断社会でも体験できる、大勢で感動を分かち合う機会。家族単位で楽しめるイベント。それらが国外在住邦人の多くが求めているものであることを実感しました。

クリスマス礼拝でのバプテスマ

主日礼拝では毎回、人数は少なくても必ず子どもクラスを持ってきました。（牧師夫人が担当しています。大人向け説教の時間に別の部屋へ移動し子ども向けの聖書メッセージを語ります。）その中から、教会員の子弟でバイリンガルの10歳になる少年が決心者となり、12月19日のクリスマス礼拝でバプテスマを受けました。「アクション・バイブル」と呼ばれる、本格的な英語の聖書マンガが受洗決心の上で大きな役割を果たしました。子どもに対しては、根気よく聖書のメッセージを聞かせ続けると同時に、それぞれが興味関心を最も持ちやすいツールを提供してあげることが大切であることを認識する機会となりました。（つづく）

黒田禎一郎牧師と行く聖地イスラエル10日間の旅

イスラエルツアー再開しました！

私たちの聖地旅行の特徴は、心を静めて歩く「ゆったり旅」です。イエス・キリストが愛された静かなガリラヤ湖で３泊し、ゆっくりした静思の時を持ちます。毎朝のデボーションから始まり、野外礼拝でも神を賛美する楽しい旅です。

期　　間：2022年2月6日（月）～2月15日（水）10日間
募集人数：25人（最小携行人数15人）
旅行代金：498,000円（別途燃油チャージ、出国税が必要）
申込締切：2022年10月末（定員になり次第終了）
団　　長：黒田 禎一郎　利用航空会社：トルコ航空（羽田空港発着）

お申込・お問合せ：（株）ホーリーランドツーリストセンター
大阪市中央区北浜 2-3-10 VIP 関西センター5階
TEL：06-6226-1307 FAX：06-6226-1308　企画：ミッション・宣教の声

海外伝道シリーズ

旧東ヨーロッパの教会と信者は今

174

ブルガリア共和国

黒田禎一郎

ブルガリアはバルカン半島に位置し、北にルーマニア、西にセルビア、北にマケドニア、南にギリシャ、トルコと隣接し、東は黒海に面する小国です。この国は、花、ローズオイル、考古学的発見等があり、美しい自然の国としても世界的に知られています。らに、非常に豊かな文化とキリスト教の遺産を持つ国です。多くの歴史家は、ブルガリア人はキリストの福音を受け入れた最初のスラブ民族と言います。ブルガリアの最初の文献は西暦 886年、古スラブ語とアルファベットを構築した修道士キリルとメトディウスの民族的起源にまでさかのぼります。大多数のブルガリア人は、そのような先人を誇りに思っています。

いずれにせよ、いわゆるキリスト教はブルガリアで国の生活と発展に大きな影響を与えてきました。無神論的な共産主義が長く続いたにもかかわらず、ブルガリア人の約78%は、文化的に今もキリスト教とつながっていると考えています。しかし、生きた信仰の個人的必要はさらに重要です。国人口は約700万人で、首都はソフィアです。

文書を配布中の兄弟

プロテスタント教会

プロテスタント教会はブルガリアでは3番目に位置していますが、精神的にも社会的にも活発な働きを行なっています。ソフィアのインマヌエル・ヴィルコウ牧師は、ジェンダー問題が次第に大きくなりつつある中で伝道の困難を経験しています。しかし一方では、イスラム教徒が多い地域では福音の門戸が開かれつつあると語っています。このような状況でヴィルコウ牧師は文書伝道に重荷を持ち、学校や施設はじめ多数の人々が集まる所でトラクト配布に力を注いでいます。そして子ども用雑誌「パテシュカ」を2008年以来発行し、現在では多くの子どもたちが学校、寄宿舎などで読んでいます。ある学校では宗教の時間でも用いられています。最近では、ウクライナ避難民にもトラクトをはじめ福音的文書も渡すことができています。またドイツの宣教団体「フリーデンズ・ボーテ」の協力で、クリスチャンの霊的成長にも力を入れています。クリスチャンが良い信仰書に触れ、成長することが願いです。

ヴィルコウ牧師夫妻

福音宣教

ヴィルコウ牧師はソフィアからブルガリア全土への福音宣教ビジョンを挙げ、地方都市ルッセに向かい働きを進めています。約700万人の国民に福音を届けるため、主にある敬虔で忠実な働き人を求めています。ルッセには敬虔なクリスチャン・ファミリーであるアレキサンドロフ牧師夫妻がいます。彼らはいろいろな困難があるにも関わらず、主にあってしっかりと仕えています。彼らにも伝道の協力者が必要です。2012年、アレキサンドロフ牧師は自分たち家族だけで開拓伝道を始めましたが、自宅を開放しての集会は狭くなり、会堂が必要となってきました。人々が入り切れなくなり今では、野外のオープン・エアで集会を開いています。教会員は30人ほどですが、その倍数以上の人々が集まります。子どもたちの教会学校はじめ、青年会、兄弟会、婦人会、高齢者や病院にいる人々の訪問などで多忙な毎日です。彼らは今、同じビジョンを持つ同労者を求めています。お祈りください。

野外に集まる人々

ブルガリア人の平均的生活

ブルガリアは2007年にEU（欧州連合）に加盟しましたが、経済的にはEU西側諸国とは比較できない低さにあります。これは旧東ヨーロッパからEU加盟を果たした国々の現実です。そのため生活が困窮する人々は少なくありません。労働力となる男性や青年は国外へ「出稼ぎ」に出て、国内に残る人々（高齢者、病人、子どもたち）へ、生活費を送金しています。すなわち家族が一緒に生活できず、離ればなれになっています。それだけに問題は山積しますので、教会の働きは広く負担がかかっています。お祈りください。

ウクライナ避難民

国全体が豊かでない中、ブルガリア政府は一部のウクライナ避難民の受け入れを決定しました。ウクライナから何一つ持たず避難してきた女性や子どもたちを、温かく迎える姿には脱帽します。彼らへの食糧、衣服、住居等の提供が必要となっています。かつてマケドニアの聖徒たちはエルサレム教会が非常な試練に出会っていることを耳にした時、自分たちは決して豊かではなかったにも関わらず、喜んでエルサレム教会に愛の献金を贈り届けました。キリスト者と教会の模範的姿を見ます。今、ブルガリアの教会は大きな闘いの中にあります。ブルガリアの聖徒たち、特に教会指導者たちのためにお祈りをお願いします。　（つづく）

私たちを変えて下さる内なる方

私たちが見る奇跡の中で、最も素晴らしい奇跡は、人々が聖霊様によって新しく変えられていく姿ではないでしょうか。朽ちるべき肉のうちに聖霊なる方が住んで下さると、暗かった心の部屋はイエス様の光で明るく照らされ、どんな暗闇も出ていきます。神と出会ったその人生は、やがて周囲にも祝福の泉を注ぎ、影響を与えていく神の御業が起こされます。

無難に生きる家庭

ク・ヨンヒは北朝鮮最北端にある、小さな炭鉱町で生まれました。ヨンヒの父親は10年の兵役（北朝鮮男子の兵役は17才から10年間義務付）を終えたあと、党の方針により炭鉱に配置され、結婚し、5人の子宝に恵まれました。ヨンヒは一家の末娘として生まれ、貧しいながらも家族からの愛情を一身に受けて育ちました。父親は炭鉱で勤勉に働き、また党の忠誠分子であり、母親は共同農場で働きながら、家事に育児に大忙しでした。彼らは国家が要求するような模範的な家族であり、無難に生きる平凡な北朝鮮一家庭でした。

そんなある日、父親が働いている劣悪な炭坑が崩れ、ヨンヒの父たち労働者は崩れた炭坑に生き埋めとなりました。人力で事故現場を採掘し、数日後、父親は生きて発見されましたが、父以外の労働者たち全員は絶命していました。九死に一生を得た父親を国家は英雄扱いし、金日成の名刺が刻まれた日本の日立製である「松」というテレビが一家に贈られました。村じゅうにたった1台だけのテレビとなり、自慢の家となりました。しかしそれとは裏腹に、同僚全員を事故で亡くし、自分一人だけ生き残ってしまったことが父にとって大きな心の傷となりました。そんな父もヨンヒが11才の時に他界し、彼女の家族は1990年代の大量餓死により国家に殺害されました。

ひとりぼっちの旅人

家族を亡くし独りぼっちとなり、幸せだった自分はもう何処にもいないと抜け殻のようになったヨンヒも、数十万人の脱北者の一人となりました。世界の多くの人々が、脱北者たちは生命を賭けて自由を取り戻した勇者たちだと褒め称えますが、実際はそうではありません。彼らは身も心も全てを金政権に削り取られ続け、ただ空腹のあまりさまよう亡者たちに過ぎないと言います。中国大陸に踏み入れたヨンヒも流されるままに、人身売買で売られていました。そんな彼女を中国東北地方の男やもめが買いました。その男性は幸い心ある人であり、ヨンヒを愛し、正式な結婚式も挙げ、夫は友人を通じて公式の戸籍も作りました。二人の間にかわいい息子が生まれ、ただ翻弄されるように生きていたヨンヒは、思いがけない幸せを手にしました。

けれども、いくら正式に中国人の妻になったとしても、自分は北朝鮮国家を背き、中国公安に見つかると、即強制送還となる身であることは変わりませんでした。時間が経つにつれ、ヨンヒは強制送還の恐れに苛まれるようになりました。とうとうヨンヒは中国から出る決心をし、夫にそのことを告げると、夫は子どもまで危険にさらす訳にはいかないと息子を渡さず、彼女もそれを受け入れました。愛しい息子と夫と別れ、涙を噛みしめながらヨンヒは再び、孤独な旅人に戻りました。私はどうして、愛する者たちといつも別れなければならないのだろうか、その胸の痛みを抱いて、ブローカーと共に川を渡り、森を通って山を越え、カンボジア首都の岸辺に到着しました。

心に微笑みを

ヨンヒがたどり着いた場所は、韓国人宣教師がこれまで数千人の脱北難民を保護し、大韓民国へ送り出すために秘密裡で仕えている場所でした。ヨンヒはこの宣教師を通じて、生ける真の神を知りました。それまでの彼女は豆満江を渡りながら、誰かわからない神に祈ってみたり、中国で売られていた時もあらゆる神に懇願し、ただ漠然と神なる存在を信じてはいました。しかし、自分の全ての罪のために十字架で愛を示して下さった真の神、主イエス・キリストにようやく彼女は出会いました。主イエス様の愛を知ったヨンヒは、神を賛美し、祈りの中で神と語り合い、彼女の毎日は神をあがめるために生きるようになりました。宣教師の隠れ家から新しく変えられたヨンヒは、一人で異国の地、大韓民国に足を踏み入れても、もう何も怖くはありませんでした。ハナ院（脱北者たちが一時的に収容される施設）での彼女は、いつも微笑みを浮かべ、心から神を礼拝する姿に他の脱北者たちも感銘を受けました。いつも孤独と恐れに苛まれ、悲しみに満ちたヨンヒの心に入って下さった聖霊様は、彼女の心を癒し、その心にも微笑みを与えて下さいました。そんなヨンヒに神様はさらなる恵みを与え、彼女は中国にいる夫と息子を呼び寄せ、家族は再び一つとなりました。夫と息子もイエス・キリストと出会い、彼らの人生も変えられました。中国人の夫は現在、韓国の教会で仕える神のしもべとなり、息子は神を愛する青年へと成長し、3ヶ国語を操る世界へ羽ばたく宣教師を目指しています。

ク・ヨンヒはその孤独な旅路で、どんな暗闇も光なるイエス様はそれらより遥かに強いことを知りました。また、神に愛されていることは、どんな孤独も癒してくれることを知りました。聖霊の力によって変えられた彼女は、夫と息子に真の救いという祝福を注ぎ、彼らの生き方にも影響を与えていきました。私たちはどうでしょうか。私たちは初めて心にイエス様をお迎えした日のように、今も内住してくださる聖霊様と絶えず語り合い、さらにキリストに似たものへと変えられ続けているでしょうか。そして、私たちの生き方は今も、立ちこめる聖霊の香りを放つように、周囲に影響を与えているでしょうか。

「神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。」
（テトス3:6）

（名前は仮名です）（次号につづく）

北朝鮮の子どもたち

英　国

エリザベス女王と
J・ウエルビー大司教

9月8日、エリザベス女王は96歳の生涯を閉じられました。国葬として行われた女王の葬儀は全世界へ同時中継され、世界中の人々が別れを惜しみました。女王は神への強い信仰者として知られ、盛大に行われた葬儀でも偲ぶことができました。女王は即位されて70年間、大英帝国、北アイルランド、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド等の最高権威者としての務めを果たし、英国国教会の最高首長としても任を全うされました。英国国教会ユスティン・ウエルビーのカンタベリー大司教は、女王の勇気、卓越した能力とご性格、そして他の人々への配慮などを高く称賛しました。国の最高権威者として日々、神への敬虔な信仰を保持し常に神への信頼と愛を持っておられました。さらに2021年に召された夫フィリップ殿下と、睦ましい夫婦生活を過ごされました。英国では女王の逝去後、英国憲法に従いチャールズ殿下が国王に即位されました。人口約6,700万人の英国において、1983年の英国教会会員は40%でしたが、2018年には12%に減少しました。一方、イスラム教徒数は1%から6%に増加しています。どうぞ、英国のためお祈りください。

ド　イ　ツ

●世界の主要国では高いインフレに出会っていますが、欧州先導国の一つであるドイツも例外ではありません。ドイツ統計局の発表では、8月のインフレ率は7.9%でした。ドイツ人の主食であるパン屋さんは、高いインフレで悲鳴を上げています。今年に入りスタッフの最低賃金は12ユーロ（約1,700円）となり、同時に専門職資格を持つ人の最低賃金も高騰しました。スタッフにとっては喜びですが、それは商品価格に跳ね返っています。第二の理由は、原材料の価格が高騰していることです。例えば、ひまわり油は103%、クワーク（牛乳が凝固したもの）51%、バター48%、小麦粉39%、ザーネ（生クリーム）38%、牛ひき肉35%、ヌードル32%、ミルク27%、卵24%等です。そしてエネルギー価格も非常に高騰し、経済事態が困窮してきました。以前は香り豊かな焼き立てパンを朝食でいただくのが普通でしたが、今では冷凍パンを食べるように代わってきました。さらに原油価格高騰により、今冬の暖房に困る人々が現れることが予想されます。このように一般市民の生活は高いインフレにより、苦汁を味わうようになってきました。お祈りください。

3千人以上が集まった「秋の聖会」

●9月11日、南ドイツ・リーベンツェルで「秋の聖会」が開催されました。テーマは「ジェンダー」でした。講師のフォルカー・ゲックル教授は「性別は人が選ぶものではない。」と語りました。最近のドイツ社会では、ジェンダー問題が大きくなりつつある中で大きな課題です。ドイツ政府の「性の選択」の見解は生物学的によるのではなく、本人の性の感覚によるものであるという傾向です。つまり性別は自己選択できるというものです。この背景には性転換という課題が潜んでいるだけに、ゲックル教授は警告を出しました。リーベンツェル国際大学学部長のヴィルフレッド・ストーム教授は、「人が生まれて、亡くなることは全て神の主権にある。」と語り、性の選択は神の領域にあるだけに論外であると主張しました。そして神学は「命の実権を握るお方は天地万物の創造神、サスティナー（保持者）が握っておられる。」ことを明白に位置付ける必要があると述べています。どうぞ、このためにお祈りください。

●エアフルトにあるINSA市場調査相談所によれば、ドイツ人の4人に3人までが国教会から脱会することに理解を示していることが明らかになりました。特にその多くの人々は宗派を問わず、「緑の党」を選択していることも判明しました。すなわち現在のドイツ人の約72%が、国教会から離れることに理解しています。脱会に理解を示さなかった人々は12%、分からないと返答した人々は4%でした。欧州の政治経済の先導国の一つであるドイツの実情が、ここにあります。どうぞ、お祈りください。

●ドイツの保険会社DAKの調査によれば、2018年から2021年にかけて、コロナ感染症は青少年に心理的、精神的負担を与えたことが明らかになりました。調査対象は78万2千人の青少年で、うつ症状、肥満症、自律神経失調症などの症状が見られました。この3年間で「抗うつ剤」の処方が65%も増えました。特に女子にその症状が多く見られました。青少年専門職協会会長のトーマス・フィッシュバッハ医師（ケルン市）は、「コロナ感染症は青少年に多大な影響を与えてしまった。」と語っています。

インドネシア

国際人権団体IGFMとキリスト教出版社「イデア社」は、9月の「囚われ人」としてインドネシアのムハマッド・カセ師を挙げました。彼の速やかな釈放を願い、全世界のクリスチャンに祈りの要請を出しました。カセ師（56歳）は2021年8月25日、バリ島で逮捕されました。それは彼がイスラム教指導者モハメッドを、YouTubeで批判しコメントを出した2日後でした。2022年4月6日、シアミス地方裁判所は、彼の行動を神への冒涜罪とし10年の判決を言い渡しました。カセ師は昔熱心なムスリムであり、しかもイスラム教教師であり、メッカに3度も巡礼を行なっていました。その彼がイエス・キリストに出会い、2014年に受洗しました。それ以来、カセ師はYou Tubeを通してイスラム教とキリスト教の違いを説いてきました。彼への宗教的質問のアクセス数は多く、当局からマークされていました。狂信的なイスラム教徒からは、この刑は軽すぎると批判を受けています。現在、カセ師は獄中で拷問を受けていると言われます。どうぞ、彼のためにお祈りをお願いします。

ムハマッド・カセ師

パキスタン

パトラス・マシー兄弟（19歳）は、信仰のゆえに4年以上も服役していました。しかし、8月24日保釈金を払い釈放されました。背後にはアントニー弁護士の多大な働きがありました。パキスタンではイスラム教指導者預言者マホメットを冒涜する者は死刑、聖典コーランを誹謗中傷する者は終身刑が課せられます。アントニー弁護士は「マシー兄弟が釈放されたのは、彼が未成年であったことが大きかった。そして、このようなケースは前代未聞である。」と語っています。これは考えられないようなケースで、パキスタンのクリスチャンたちと関係者は生きて働いてくださる神を賛美しています。弁護士団の一人は、裁判所に彼の保証人として多くの必要書類を提出した、と語ります。国際人権委員会IGFMとキリスト教出版社「イデア社」は2018年4月に、今月の「囚われ人」としてマシー兄弟を挙げ、全世界のクリスチャンに祈りの要請をしていました。

パトラス・マシー兄弟（右）とアントニー弁護士

東アフリカ

東アフリカでは急性的に飢餓が発生し、何百万人もの人々が飢餓で苦しんでいます。世界的に人道上の支援活動を続けている団体「ワールド・ビジュン」のハナ・シュルツ氏によれば、約1,100万人の人々が飢餓状態に置かれています。中でも人口210万人のソマリアでは、約21万3千人が飢餓のため死亡しました。これは8月末の数字ですので、現在はさらに飢餓による犠牲者は増えていると思われます。理由は武力紛争とイナゴによる疫病です。それに加えて異常気候とコロナ感染症が拍車をかけています。さらにウクライナ戦争も食糧不足に間接的に関係があります。ワールド・ビジョンは2021年以来、約800万人以上に支援をしてきました。どうぞ、お祈りください。

ニカラグア

コロンブスによって発見されたニカラグアは、南米コスタリカとホンジュラスの間に位置し、日本の北海道と九州を合わせたほどの面積があります。人口は約662万人で首都はマナグアです。民族的には70%が混血で、他はヨーロッパ系17%、アフリカ系9%、先住民4%となっています。ところがニカラグア政権は、クリスチャンに対して攻撃的な行動をとっていると、カトリック系人権団体「キルヘ・イン・ノート」は伝えています。2018年以来、約200件ものカトリック教会と関連施設への攻撃がありました。憲法上は宗教の自由を保障していますが、教会を敵視し破壊や放火事件が発生してきました。理由はカトリック教会が左翼派のオルテガ大統領を批判するところにあると、キリスト教人権団体CSI代表ピーター・フックス氏は語ります。政府に抗議するデモ隊と治安部隊の衝突は、2018年以来続き、両者の衝突によって数千人もの人々が負傷しています。教会側はデモ隊を会堂内に入れて擁護しています。どうぞ、この内乱のためにお祈りをお願いします。

ウクライナ

長引く戦火で政情不安定のウクライナでは、9月1日子どもたちの新学期が始まりました。ドイツの宣教団体「バイブル・ミッション」は、新学期を迎えた小学1年生に「ランドセル」を贈りました。この団体は家族がバラバラとなり経済的にも困窮しているウクライナの家族に、少しでも助けとなりたいと願い650個以上のランドセルを届けました。彼らの大多数はランドセルはじめ学用品を揃える余裕のない家族です。このランドセルの贈物には、ウクライナ語の子ども聖書が入れられ現地教会経由で贈られました。子どもたちに神の愛を知ってもらえればと、宣教団体は願い祈っています。

新しいランドセルを手にした子どもたち

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission
〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/
発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500（送料込）

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店（店番205）
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」
The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 MIkunigaoka-Miyukidoori,Sakai-ku, Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041

編集後記

■すっかり秋の気配を感じる日々となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも私たちの働きを祈り覚えていただきお礼を申し上げます。今月も「宣教の声」をお届けできる幸いに感謝しています。

■海外邦人宣教は、今号からNYの笹川雅弘牧師に宣教レポートをお願いしました。米国西海岸在住邦人の救いのために労しておられる笹川宣教師を祈り覚えてください。

■プーチン・ロシア軍によるウクライナ戦争は混迷度を増しています。続いて苦難の中にある現地教会とクリスチャンを祈り覚えてください。感謝。

1981年12月初版発行（毎月1回1日発行）